

第3回奈良市の地域教育を考える委員会会議録

平成26年3月18日 会議

地域教育課

平成25年度 第3回 奈良市の地域教育を考える委員会 会議録

開催日時	平成26年3月18日(火) 9時30分～11時05分
開催場所	奈良市庁舎 第22会議室
内 容	<p>○ 開会 教育長あいさつ</p> <p>○ 議事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成25年度の事業報告について 2 第3回「交流の集い」の報告について 3 アンケート調査の概要について 4 次年度の課題について 5 その他 <p>○ 閉会</p>
出席者(委員)	<p>岡田龍樹会長 佐野万里子副会長 竹村健委員 畑中康宣委員 瀬古口浩之委員 南出藤作委員 村内俊雄委員 新谷明美委員 若江真紀委員 魚谷和良委員 (欠席 宮本克子委員)</p>
(担当部局)	<p>中室教育長 北学校教育部長 福岡教育総務部長 寺田子ども未来部長</p>
(事務局)	<p>石原教育政策課長 松田地域教育課長(事務局長) 梅田学校教育課長 地域教育課から7名</p>
開催形態	公開
担当課	地域教育課

議 事 お よ び 協 議 内 容

○ 開会

教育長あいさつ

本日は、年度末の大変お忙しいところ、第3回奈良市の地域教育を考える委員会にご出席いただき、ありがとうございます。日頃より、奈良市の教育行政にご理解とご協力をいただいておりますことに対し、心から厚くお礼申し上げます。

本市では、教育ビジョンでもお示ししておりますが、地域全体で子どもを守り育てるための取組として、「放課後子ども教室推進事業」と「地域で決める学校予算事業」に取り組んでまいりました。放課後子ども教室は、平成19年度より4小学校をモデル校に開設し、平成24年度にはすべての小学校で放課後子ども教室を立ち上げることができました。また、地域で決める学校予算は、平成20年度から始まった学校支援地域本部事業を引き継ぎ、今年度で6年が経過しようとしています。

これまで、地域の方々の協力を得ながら、学習支援や環境整備の取組、登下校の見守り活動など、学校支援の輪が広がってきています。さらに、これらの取組の関わっていただくコーディネーターの方々も300名を超えるまでになりました。2月1日に実施しました第3回「交流の集い」においても、コーディネーターによる実行委員会が組織され、企画・運営にいたるまで、積極的に活動していただいたと聞いております。全国の調査におきましても、「地域が学校を支える仕組み作り」の達成度は、奈良県が大変高いようです。おそらくその大部分は奈良市が支えているのではないかと考えられます。

一方で、放課後子ども教室や地域で決める学校予算に関わっていただいている、コーディネーターが固定化し、5年を超える人も増えてきたことから、次を担っていただく後継者の確保が大きな課題となってきています。

本日の委員会では、全体を俯瞰する立場から、今年度の取組を踏まえ、次年度の奈良市地域教育推進事業を進めるために、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただければと思っています。今後とも、本市の事業に対しまして、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

○ 議事

岡田会長 本委員会は、運営要領により公開とさせていただきます。また、会議録を作成するため、録音と写真撮影を行いますことをご了承ください。本日の会議録の署名は、竹村委員と畑中委員にお願いします。本日の会議の傍聴希望はございましたか。

事務局 傍聴希望はございませんでした。

岡田会長 では、議事に入らせていただきます。案件1「平成25年度の事業報告について」案件2「第3回「交流の集い」の報告について」の説明を事務局よりお願いします。

事務局 (資料①②③④⑤⑥を使って事務局説明。)

岡田会長 ありがとうございます。この件に関しましてご質問ご感想等ございますでしょうか。第3回交流の集いは、県新公会堂で実施されましたが、能舞台で子どもの演技が披露されるなどして、たくさんの人が来場され、大変盛り上がりました。ご説明にもありまし

たが、企業の方もブースを出していただき、民間も学校の支援に取り組んでおられます。いろんな広がりが出てきているように思います。交流の集いは、総合コーディネーターの皆さんが何度も話し合っていたいただき、プログラムを作られています。行政と協働で運営する形が定着してきているように感じます。

新谷委員 交流の集いでは、実行委員会を組織して、繰り返し検討を重ねて全体の意見を拾い集めて開催に到ったのですが、そこに到るまでに実行委員会のあり方であったり、実際に行われた交流の集いの反省点もたくさん出てきました。そもそも交流の集いはどこに向かって開催しているのか。コーディネータを対象に、内に向かって開かれているのか、一般社会に認知してもらうための開催なのか、というところまで煮詰めずに開催し、盛り上がりましたが、盛り上がっただけという面もあり、来年度からは、そのへんのところをきちっと踏まえた上で、実行委員会を立ち上げたいと考えています。実行委員会も素人の集団なので、意見がなかなかまとまらないということで、かなりの回数を無駄に重ねました。そういう点でも、勉強にもなった実行委員会だったと思います。

村内委員 今回は第3回の交流の集いだったのだが、1回目2回目は12月ごろに教育委員会から話があってこういう形で実施しますという形だったように思うが、今回は実行委員会も9回開かれ、無駄もあったかもしれないが、今回の一番大きな特徴としては、教育委員会にバックアップしてもらいながら、実行委員の手で自発的に実施できたというイメージだ。新谷さんのおっしゃるように、やりながら、一体誰に向かってやっているのか、ポスターもだれに向かって出しているのか、が不明確でよく決まっていなかった。また、市民だよりに載せてはもらったが、なかなかそれで来られた方は少なかったように思う。アンケートの回収率も少なかったということだが、アンケートも2種類あったりして混在していたが、中途半端にそろえるよりも、交流の集いをまとめ上げることが大切だということで、そのへんに力を入れることができなかった。ただ今回は、参加者アンケートにもあるように、また、私らもそう思うのだが、いろいろできてよかったと思っている。反省点もいっぱいあるが、それはまた来年度につなげていけばいいことだ。ただ、実行委員会の責任者はだれなのかということは、あまり声を上げるとややこしい面もあったのでそのまま実施したが、本来は、実行委員会の責任者がいて、部門ごとの責任者がいてという形が組織として望ましい。それが大きな反省点としてある。

岡田会長 そもそも交流の集いはだれが交流するのか。本来は、携わっている人たちがうちうちで交流を広げていくということだと思うが、大きな広がりになっていくと、会場も大きくして、いろんな人にも来ていただいてということになってくると、一体どこを向いているのだろう、ということが究極の問題になってくる。この会議でも議論されていますが、子どもたちの指導者とかボランティアには広がっていくのだが、なかなか地域に広がっていかない。そのあたり、実行委員長はだれなのかということも含め、次回からもう少し戦略的に取り組む必要があるということでしょうか。それでは、案件1、2はこれでよろしいでしょうか。コーディネーター研修の第4回「先生と話そう」の講師に、瀬古口校長の名前があるが、学校の先生の立場から、コーディネーターさんと交流された様子をお聞かせ願えないか。

瀬古口委員 理解度・役立度・満足度はどうだったのかと気になっていたが、まあまあ役に立った

とさせていただいているようなので、ありがたいと思っている。私が話したのは、学校の現状をコーディネーターが把握していただいていることが大事だということと、どちらもプラス・プラスの関係でいかなければいけないという、二点を話した。基本は、どの学校でも笑顔あふれる地域連携にしていけたら、ということだ。グループ討議に入るときには、忙しくて学校に戻らなければいけなかったのも、その後の話し合いの様子はわからない。私としては、十分なことができたかどうか心配だったのだが、アンケート結果を見てホッとしている。

岡田会長　　いまだに学校の先生の理解が、という声があります。校長先生が、地域で理解が大きいとこの事業も進んでいくと言われていきますので、学校の先生にこの事業に積極的に関わっていただくにはどうしていったらいいのか、ということを考えていかなければいけないということです。それでは次に進みます。案件の3「アンケート調査の概要について」事務局から説明をお願いします。

事務局　　(資料⑦⑧を使って事務局説明。)

岡田会長　　二つの調査についてご報告いただきました。一つは奈良市が独自で行っているアンケートで、協議会長、総合コーディネーター、代表コーディネーター、各学校園に行ったものです。もう一つは、学力学習状況調査の全国との比較です。奈良市のアンケートは速報ということですが、3月7日締め切りということですが、もう少し回収率は上がるわけでしょうか。

事務局　　7日が最終日だったので、それ以降も入ってきているので、それらを加えて最終報告としていきたい。

岡田会長　　回収率も100パーセントに近づいていくわけですね。

事務局　　はい。

岡田会長　　回収したばかりということで、全体値ということではなく、現状値・速報値ということですが。みなさんにご協議いただいて、アンケートの内容も作っていますので、また、幅広く行っていますので、全体をきちっと分析はしていただけるということです。学力学習状況調査も利用して、とりわけ子どもの意見は独自の調査では上がってこないのも、子どもはどんなふうに変まっているのか、子どもから見てどうなのかの一端を見ることができると。この二つの調査についてご意見ございますか。

村内委員　　奈良市の独自アンケートに、事業費が少ないがある。会長と総合コーディネーターの50パーセントが事業費が少ないとなっている。私は個人的には事業費が少ないとは思わないのだが、そしたらいくらあったらいいのかということだ。これは比較論だが、どこの市町村でもこれだけの事業費を出していただいているところはどこにもない。事業費が少ないというのであるならば、その事業費がちゃんと使われているのか、適切に効果的に使われているのかということ、会長と総合コーディネーターの研修をしたらいいのではないと思う。全体を見れば、市全体で事業費が7000万、8000万あると思うのだが、削減される傾向にあると思うし、そういうことを踏まえて、この事業費をどう運営していくべきかと考えることだと思う。もう一つ、学力学習状況調査の「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という項目で、全国との比較で、当てはまる割合が低い。われわれは地域で決める学校予算事業で、子どもたちが社会をどうした

いのか、どう考えていくかの比率を上げる事業をやっているつもり。校区によって違うとは思いますが、ここがポイントだと思った。

新谷委員 課題のところで、学校の教職員の理解が不十分だということがでてくるのだが、今年度初めて、コーディネーター研修ではなく、教職員研修に、コーディネーターが参加させてもらい、グループ討議を行った。先生方の話を聞くと、認識の差が大きいということがわかった。少しでも事業に関わっておられる先生方は、すごく理解を示して下さい、よかったですと言ってくれるのだが、関わっておられない先生方にとっては、何をやっているのか全然わからない、自分の学校のコーディネーターがだれかも知らないということだった。学校の現状が見える機会となりとても良かった。来年度もぜひこういう機会を持っていただきたい。

若江委員 アンケートの結果から見えることへのご提案だったと思うのですが、私はいくつか地域と関わる学校支援の委員をさせてもらっており、いろんな地域のこういった資料を見させてもらっている。冒頭に教育長からお話があったように、奈良市は全市で展開しているので、こういうアンケート結果になってしまうのはしかたがないのかなと思うのだが、結論から言うと、子どもたちに成果がきちんと出ていないのが、一番大きな課題だと思う。皆さん方が何かをされるのは、子どもたちにそのことが成果として出ることをねらいにし、また、成果を出すために地域もつながっていきこうということだと思う。趣旨としても、学校・家庭・地域の連携事業であるにもかかわらず、アンケートでは、先ほど新谷さんからの指摘にもあったが、事業における課題についての(1)の「事業に対する学校・教職員の理解が不十分」の項目で、協議会長の44パーセント、総合コーディネーターの21パーセントと半減し、代表コーディネーターの16パーセントとなり、現場に行けばいくほど減っているので、もしかしたら現場はそうでないのかなと言えるのかもしれないのですが、今の話から言うと、コーディネーターがある限られた先生としか接していないので先生方の理解が不十分とは思っておられない、総合コーディネーターになると複数の教職員と接するから割合が上がり、協議会長になるとさらに上がるというふうに考えられる。ひとつひとつのデータの意味をもう少しきちっと分析して、かつ、子どもたちに成果が出ていないということは、何か間違っていること、何かもっと改善すべきことがあるはずだと思う。26年度の実施にあたっては、その分析を徹底的にして着手をしないと、1年間はあっという間に過ぎてしまう。当初の1回目の話し合いと、課題に対する解決策ということが、すごく重要だと感じました。

岡田会長 子どもたちに成果が表れていないというのは、どのあたりの数値か。

若江委員 全体的に全国平均よりも突出して出ているというのが少なかったですね。特に地域との関わりのところ、子どもたちが地域の活動に参加するかとか、教職員が地域の活動に参加するかということが、全国平均よりもやや低かったですね。

岡田会長 これだけやっているのに、地域行事へ参加していますか、突出して全国に比べて多くあってほしいのだが、そうでもない。子どもたち目線で、地域行事なのか、学校の行事なのかかわりにくいかもしれないが、この事業の目的は地域で子どもを育てることですから、直には、子どもたちに反映するのが事業の究極の目的なので、そこは追及していかなくてはならない。全てのデータではないということなので、いろいろ分

析のしがいはあるし、いろいろな読みをつけて、この委員会でも、こういった読みはどうかという事で、委員の先生方にも、単純な集計が終わった後で、ご意見をいただいてから最終報告という方法もあると思うので、ご検討いただきたい。

事務局

今ご指摘いただいたことで、課題についても、コーディネーターに対しての課題、学校に対する課題、事業予算や行政に対する課題等、それぞれの課題があるので、カテゴリー別等に分けながら分析し、また、比較しながら提出させていただきたい。

岡田会長

この事業が始まった当初は、割と予算が余ったりして、それを国へ返すというようなこともありました。それがだんだんなくなって大体使いきっている。使い道に関しては、より効率よく、効果の上がる方法をこれから詰めていかねばならないが、予算がもっとあつたらもっといろんなことができるぞという意欲は、地域の中に出てきているのかもしれない。また、減らされるという傾向にあるぞというので、減らされては困るという意味もあるかもしれない。そこらあたり、データがそろったらきっちりと分析することです。他に何かございますでしょうか。

瀬古口委員

先日、地域で決める学校予算のプレゼンテーションが行われ、富雄中では、学校側がこの事業によって、生徒たち学校がどう変わったかを、定量的にデータを示して、発表させていただいた。地域から支援を受けるというスタイルが定着する中で、奈良市内のどの学校も子どもたちがよくなっていると、私自身、中学校長会長をしながら思っている。例えば学校園の「事業における効果について」ですが、12番の「学校が活性化した」とか、11番の「教職員が地域連携に対する必要性を感じるようになった」は、非常に高いです。地域連携事業で学校が良くなったということを教職員が感じているのは確かだ。また、資料にもあるように、奈良市の場合は、いろんな事業を始めている学校が増えていることがわかる。ただ、先ほど報告されたように8番、9番、10番のデータでは、そうでもないということだが、例えば、10番「子どもと向き合う時間が増え、学習や生徒指導に力を注ぐことができた」は、学校支援が進んでいくとそうなるのだが、基本的に事務的な負担が多く、教職員がなかなか実感できないということがある。うちの学校では、職員会議中にボランティアが安全確認をさせていただいていますし、いろんなところに入っていただくことによって、そういう時間が増えているのではないかと私は思っている。9番「教職員の負担が軽減された」というのが少ないのは、多分アンケートの回答は教頭先生がしていることも多いと思うが、教頭会で話をすると、教頭先生の負担が、この事業でかなり多いという不満があるようにも感じる。8番の部活動については、専門家が学校にいない場合は、地域の方が部活動の支援に入っていただくことで、非常にありがたく、子どもたちには大変プラスになっています。ただ、中体連の参加の体制とか、顧問に教職員がならなければいけない等の制約があつて、全面的に地域の方にお任せするということが難しいという状況がある。あと、学力学習状況調査で、教職員が地域の活動に参加しているかという項目があるが、中学校の先生方は、ほとんど土日も部活動で学校に来ているという実態があるので、逆に、学校の方の土日に地域は出にくいのではないかと思います。学力学習状況調査の、地域人材の招へいだとか、ボランティア等による授業サポートを行ったかという項目に関しては、奈良市はトップになっているので、これは進んでいるのではないかと私は思っています。

岡田会長 学校園に対するアンケートも、管理職の方と担当教員の二通り聞いているので、お世話していただいている方は大変だと思うが、細かく分析してほしい。また、こういった意識調査は積み重ねていくと、どんどん課題が減るのではなく、増えていくということもある。きちっと課題が見つめられるという意味もあるかと思う。今校長先生から、実感として現場では全体として効果が上がってきていると、おっしゃっていただきました。そういうのは、できるだけ見える形にして、全体で気づいていくことも大切だと考える。他にはございませんか。

南出委員 小学校ですので、放課後子ども教室の話を中心にしていきます。登美ヶ丘小学校は、登美ヶ丘北中校区なのですが、地域支援できていただいている方、元小学校の先生でコーディネーターをしていただいている方が、小学校にも来ていただき、昆虫教室を実施していただいている。小学1・2・3年生に来ていただいているのですが、子どもたちは本当に生き生きと活動している。理科というのは、低学年では生活科になっているのですが、小学校1年生から具体的に理科の専門的な話、昆虫の標本の作り方等をしていただく機会がないので、昔懐かしいけど、大変ありがたい。イネの栽培の時も地域から来ていただき、登美ヶ丘小は街の真ん中の学校なのだが、日本の四季を教えていただいている。小学校の不登校の子が、放課後子ども教室には行きたいということで、授業には出ないのだが、放課後には来ている子もいる。このように、子どもたちの励みともなっている。習字教室は、習字の専科の先生と、地域の方とで、授業をしていただいたり、放課後子ども教室でも12月に実施し、親子で楽しんでもらっている。そういうのがかなり広がったのではないかと思っている。全校児童458名の全員が登録している。課題は、安全面をいかにクリアしていくかだ。高齢化が進んでいる地域で、一戸建ての家には、ほとんど70～80代の方が住んでいる。また、自治会がないので、地域の中でリーダーになってくれる自治会長がおられない。地域と小中、PTA、来ていただいている支援の方々が見つないでいかなければいけない。地域行事がないので、もう一回立ち上げていく時期に、ちょうどこの事業が、私はいいかんと思っています。

岡田会長 地域の行事に参加していますか、という質問項目に対して、子どもは、地域の行事と思っているのか、学校の行事と思っているのか、と話したが、実際に地域の行事とは何なのか、ということです。学校を中心に地域と行事が盛り上がってきているということにはなってきているのですが、そもそもの地域でのいろんな活動というのがどうなっているのか。子どもたちが地域で育っていくといった時の地域がどうなっているかというのは、教育委員会を越えたコミュニティーの課題ともなっている。学校を中心とした子どもとの関わりの中から、コミュニティーの再生につながっていけば、それはそれでいいのかなと思う。確かに奈良なんて昔からある行事というのがたくさんあるはずなのですが、それが地域単位で運営できなくなっているというようなことがあるのかもしれない。そういう課題が一方であって、そういうところに子どもが参加できるということが必要かと思う。

竹村委員 よそはわかりませんが、自主防災防犯をやる時に、中学校の先生から子どもを参加させてほしいと申し入れがあったり、祭りの時など自警団や消防の方から神輿を出す時に、子どもや親に案内を出して申し込みを募ったりと、結構楽しんでやっている。アンケートに表れているかどうかはわからないが、夏祭りなどでは、一番先に飛んでくるのは子

どもで、親は後からついてくるという状況があり、結構地域としてはやっているつもりだ。地域によって違うが、行事には当然先生方も指導で出ておられるし、地域の子どもが思い出を作れるようにと、自治会も呼びかけている。

魚谷委員 昨年機会を得て、ある学校区に、イベントを盛り上げる立場で行かせてもらった。それまで交流の集いなどに参加する子どもたちしか見ていなかったの、ある意味、いい子どもたちやいい事例しか見ていないので、仕組みとして精度も上がってきているし、よくなっていると感じていたのだが、現場に行ってみると、まだまだそうでもないと感じた。地域の方が学校で活動することが子どもたちにとってあたりまえになって、それについては大きな成果となっていると思うが、現場に行ってみると、そうでもないところもあるのかなと感じた。資料を見て、一番大事と思っているのは、地域の人と子どもたちの接点である「あいさつ」だ。興味深かったのは、学校への質問で、奈良市は学校の指導は少ない。一方、子どもの実態では、近所の人にあいさつをしているというのは多い。ある意味では、指導しなくてもきちんできていると、数字からは読み取れる。実際に行ってみると、いろんな子どもがおられるし、先生もいろんな方がおられるので、現場に行くと現場のご苦労が見え、また、まだまだ成果が少ないところもあるのかなと感じる。学校における子どもについて、しっかり成果が上がることを意識していく必要がある。

岡田会長 地域であいさつするよ、ということがデータとして出ている。ある程度地域の方と接することが日常化している。次年度に向けて、子どもにどういう成果が上がったのか、どういう成果を上げるためにどういう活動をするのか、という視点で取り組む必要がある。というご意見をいただきました。他に何かこのアンケートについてございますか。

畑中委員 地域で決める学校予算事業も定着してきて、中学校ではいろいろ課題はあるものの、中学生に浸透してきていると感じることがある。伏見中学校区では、事業の中に二十歳を祝う会というのがある。中学校の卒業生が5年後に再会し、地域の方がたくさん出てきて、二十歳を祝うという行事です。卒業式の来賓メッセージのところに、地域の方が、「みなさん5年後に会いましょうね」と書かれていた。すごくありがたいな、卒業してからも地域の方が見守っていただいているのだなと、こういった活動が浸透していると感じた。それと、先ほどから出ている地域の行事ですが、地域の行事にどういう形で子どもたちが参加したらいいのか、わかりにくいという行事も確かにある。子どもだけでは参加しにくいので、保護者の方もどのように参加したらいいのか、わかりにくい面もある。11月の子ども安全の日の集いで藤田先生がおっしゃっていた「防災の取組は保護者・PTAの関わりがすごく大切だ」、まさにこの部分で、保護者・子どもが積極的に参加していくということが大切になってくる。保護者の中には、「学校の予算をなぜ地域が決めるの」という感覚の人もおられ、「交流の集い」もそういう機会なのだが、中身をもっと詳しく知っていただくことが必要だ。中学校の保護者にとっては、部活動の充実に関心がある。部活動の充実をどういった形でこの事業に結び付けていくかも、共に考えていく機会が増えていけばいいのかなと思う。

岡田会長 子どもも実感して、中学校・高校を卒業して他府県へ行った時に、友達と話す時に、奈良ではこのようなことがものすごくあったよと、そこで初めて気づくというようなこと

があるのかもしれないが、奈良市はそういう形で地域と一緒に育っていくということをしている、そんな中に君たちはいるのだと、子どもにも実感してもらえらるようなことも必要だ。それでは、次の案件4「次年度の課題について」に入ります。事務局お願いします。

事務局 (資料⑨⑩を使って事務局説明。)

岡田会長 奈良市としては、この予算は、26年度は申請しないということか。

事務局 今のところは、申請はしておりません。検討はしています。

若江委員 一部これについて情報提供させていただきます。私はこの推進室のコーディネーターをしております。この資料ではわけがわからないと思うのですが、一番のポイントは、資料の⑨の「予算案のポイント」の①「土曜授業推進事業」は、奈良市は全面展開しているので、市全体の統一カリキュラムを作るなどしてモデル市として申請も可能です。②のところは、土曜日に年間10日程度の多様なプログラムということで、教材費だとか、コーディネーター費を出すということだが、非常にわかりにくい。次のページを見てください。「土曜日の教育活動」については大きく次の三つに分かれます。①「土曜授業」教育課程内の学校教育②「土曜の課外授業」教育課程外③「土曜学習」と、言葉が明確に違う。多分放課後子ども教室推進事業というのは、③「土曜学習」に当たる。もともと文科省が土曜日をもう一度となったのは、学力の問題があり、もう一つは、実態調査の結果から、グローバル社会に対するスキル育成、課題解決能力の育成が遅れており、それを教育課程内でやるのは限界があるだろうから、土曜日をプロジェクト型探求学習のものに戻してやるべきだ、ということで、一番の趣旨はそこだ。奈良市が取り組む場合は、授業として戻すと市全体で決めて、例えば第一土曜日は必ず登校日になるというふうに決めていかないと、中学校の場合は中体連関係の部活動や練習試合が入っているので、授業として復活させるのが難しい。小学校は比較的戻しやすいのだが、ここ10年間の間に地域でのいろいろな活動が定着しているので、土曜授業として復活させるのが難しい状況もある。奈良市として、どういう取り組みをするのかがはっきりしたうえで、今の放課後子ども教室として出ている数値が土曜学習であったとしても、もともとの趣旨が土曜日をもう少し系統だった学習にしていこうというねらいなので、文科省から出ている教育活動例というのもいろいろ出ているのだが、本当は、市なり学校単位でテーマをはっきりと決めて、例えば豊後高田市のように完全に補講だとか、先進的などということで英語の授業だとか、理科学の授業を徹底してシリーズ化するというように、総花的にやるのではなくて、ある程度方向を決めたシリーズの10回の積み上げによって1年間で、子どもにどんな力をつけるのかを明確にして取り組むべきものだ。文科省からの資料だといつもわかりにくいと感じているのだが、よくよく使い方というものを掘り下げて考えた上で、どうするかということを決めていただきたい。今文科省では、3月に出てきた市町村にどんな体制なのかということヒアリングにまわって、4月に正式に募集要項が出た時に、ある程度めどをつけておこうというもくろみで動いておられます。

岡田会長 シリーズで10回というのはどういう内容か。

若江委員 年間10回程度ということで、年間にすると月1回程度になるのだが、今までだと、4月はこれをやり、5月はこれをやりというように、活動例にあるようなものを順にやるというようなどころが多かったのだが、子どもたちにちゃんと力をつけるには、一番

欠けているところを徹底的に10回シリーズでやる、その際、授業で基礎基本をやったものを応用学習していけるものを使っていく、というのが理想とされている。

岡田会長 平成26年度予算案のポイントの②のところの「土曜日に年間約10日程度の多様な教育プログラム」だけど、それは特化して何かテーマを持って実施するのが望ましい。

事務局 イベントだけで終わるのではなく、体系的継続的な取組をするのがこの事業の目的だということです。

岡田会長 そのあたりの方針は、教育委員会・事務局の方でも御検討いただければと思う。一時期週5日制になって、土曜日は地域にお任せするところから、土曜日をもう少し有効に利用するという方向にかじが切られているのだと思う。案件5「その他」に移りたいと思います。コーディネーター勉強会が始まり、私も参加させていただいているのですが、新谷委員の方からお願いします。

新谷委員 第1回の考える委員会で報告させていただきました勉強会ですが、現在10名程度のコーディネーターが集まり開催させていただいています。最初は思いばかりが強くて、理論的に話しをする力が欠けていたので、岡田先生にご指導をいただき、勉強させていただきました。これをどういう形に持っていかという時に、参加者からの意見もあり、コーディネーター研修に形を完成させて持っていけないかということで、話を進めています。奈良市の方からも年間5～6回程度コーディネーター研修を実施していただいているのだが、講義を聞くものから、グループ討議であったりと、そこから得るものは多いのだが、特にグループ討議となった時に、経験のあるベテランのコーディネーターと経験の浅いコーディネーターの話が通じないというテーブルも見受けられました。そういうことを考えても、新しくコーディネーターになられた方に、経験のあるコーディネーターからアドバイスや聞き取りをするという初任者研修のようなものを実施し、それから奈良市の研修に入っていただくという流れで、初任者研修というのをぜひやらせていただきたいと今考えています。開催日程は、6月か7月ぐらいの開催を目標にして、検討を重ねていきたいと考えている。コーディネーターは、事務局、中学校コーディネーター、小学校コーディネーターあるいは放課後子ども教室コーディネーター、幼稚園コーディネーターと、動きに違いもあるので、そういったところに明るいコーディネーターが集まって研修内容を詰めていかないといいものがないといので、9～10名で始めていたが、広く呼びかけた結果、現在はプラス4名の参加者が増えている。いろんな方向でカバーできる研修会を作っていけるのではないかと考えている。次回は今月末に実施する予定です。

岡田会長 資料⑪が、今年度実施した中身です。全く有志で、時間を作って手弁当で勉強をしていただいています。何とか予算はつかないのかと、新谷さんが交流の集いに来られた文科省の方にも相談しておられましたが、事務局の方からはいろんな形で支援していただいていますけれども、こういった活動を更に進めていくために、何らかの形で支援ができればと考えます。3月にもう一回ありますが、コーディネーターアンケートをしたいという意向もあるようですので、そちらのほうの御検討もよろしくお願いします。私は県でも学校地域パートナーシップ事業推進委員会にも関わっているが、最初に中室教育長がおっしゃったように、奈良県はこの地域教育を進めるというので、全国的に見ても

進んでいると、そのパーセントを出す時にちゃんと奈良市の数字を入れて報告をしているので、これは奈良市の力がかなり入っていると思います。一方で県としては、小中学校に直接指導できないという弱みがあるということで、県立高校には直接指導ができるということで、この26年度から、高校に地域連携を入れていこうと進めています。奈良市を卒業した中学生たちが、奈良県の高校へ行き、高校でも地域との連携に関わっていくということになると思います。県教委の方がおっしゃっていたのですが、今奈良県は、学校地域パートナーシップ事業を進めて、奈良モデル学校コミュニティー部というのを宣伝していますので、県の採用試験を受ける学生たちが、地域教育を勉強してきている、ということです。そういう先生たちが奈良市にも採用されてくるということですので、だんだんと全体として理解も深まってきて、よくなっていくのかなと思っています。最後しめを副会長にさせていただきます。

佐野副会長 しめにはならないのですが、公民館の状況を話させていただきます。アンケートでは公民館等との連携が不十分という数値はそんなに多くなかったのですが、連携がうまくいっているということなのかなとも思うが、斜めから見ると、公民館までまだ視野に入っていないので連携すべきところと意識されていないのかなとも思えるのだが、実際は、22中学校区のうち13の協議会に入っています。その割合が少しでも増えていくように積極的に関わっていきたい。本年度はいろんな形で、中学校区の皆さん、地域の皆さんと公民館の連携が進んでいったと、事務局では感じている。例えば登美ヶ丘北中校区の地域教育協議会の事業を、公民館と共催で、公民館を会場でさせていただいたり、中学校に出かけて出前講座という形で地域の皆さんに講座を開いたりとか、放課後子ども教室の何回かを公民館が受けたり、地域の教育協議会の方々に折り紙の講座をしたりと、各地域によっていろんなやり方で連携が進んでいるという実感をもっています。地域の方にお力をいただきながら、またこちらも地域の方にお返しできるような連携を、これからも進めていけたらと思っています。

岡田会長 それではこれで本日の会議を終了いたします。

○ 閉会

- ※ 資料
- ① 平成25年度 地域で決める学校予算事業における活動内容
 - ② 平成25年度コーディネーター研修総括
 - ③ 放課後子ども教室推進事業活動実績（平成24年度・平成25年度）
 - ④ 奈良市地域教育推進事業「交流の集い」3年間の経過
 - ⑤ 奈良市地域教育推進事業「交流の集い」参加者一覧
 - ⑥ 奈良市地域教育推進事業「第3回交流の集い」アンケート集計
 - ⑦ 平成25年度奈良市地域教育推進事業に関するアンケート調査結果（速報）
 - ⑧ 平成25年度学力・学習状況調査の分析
（学校・家庭・地域の連携に関する項目）
 - ⑨ 土曜日の教育活動推進プラン（文部科学省）
 - ⑩ 放課後子ども教室推進事業 土曜日の活動実施日数
 - ⑪ 奈良市コーディネーター勉強会について

平成 年 月 日

署名委員

署名委員
